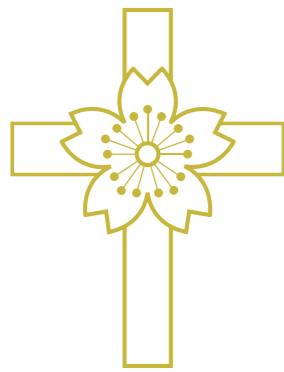




建学の精神

プール学院は、1879年(明治12)イギリス国教会宣教協会(CMS)によって川口居留地に永生学校として創設されました。1890年(明治23)日本初代のイギリス人監督(主教)プール師を記念するためプール女学校と改称、1934年(昭和9)財団法人となり、続いてCMSより土地並びに建築物全部の移譲を受けました。その後、幾度の変遷を経て今日に至りましたが、30有余年にわたるトリストラム校長の偉大な感化の下に、終始一貫日本聖公会の教育施設としてキリスト教の精神を根底とする霊的人格教育を行なってきました。そして、これは将来においても永久に守られるべきものであります。



プール学院 校章・マーク
(桜に十字架)ですが、校章の由来については記録が残っていないため、確かなことはわかりません。

学校法人 プール学院

〒544-0033 大阪府大阪市生野区勝山北1-19-31

TEL : 06-6741-7005 FAX : 06-6731-2431



創立

1879年(明治12)大阪・川口居留地に、東洋女子教育協会(FES)のミス・オクスラドにより〈永生学校〉が創立され、これがプール学院の始まりです。

永生学校に先立つこと2年前、オクスラドは自宅で〈オクスラドの学校〉を開始。イギリス国教会宣教協会(CMS)が大阪に派遣した最初の宣教師 チャールス・F・ワレンの子供たちと日本人の子供に教え始めています。

当時のオクスラドは、香港で損ねた健康状態が悪化した上に、日本語習得が思い通りにならないこと、日本政府による教育が行き渡っているためにキリスト教教育には望みがないことをFESに訴えました。FESは帰国命令を出しますが、なぜか彼女は日本に留まり、1884年(明治17)ボルトンに引き継ぐまで、永生学校の責任者として職務を全うしています。

ワレンは桃山学院の創立者で、永生学校に女子生徒が増加したことによって、男子生徒が受け入れられなくなった代わりとして、1884年(明治17)男子校として〈三一小学校〉をつくりました。この時点で永生学校は、永生女学校となります。そして、1890年(明治23)イギリスから大阪の地に派遣された最初のイギリス人監督(主教) A・W・プール(Arthur William Poole)を記念して〈プール女学校〉と改称しました。プールは病気のためにわずか10カ月しか滞在せずに帰国していますが、寄附の手紙を書くなど、永生女学校を発展させるために尽力しました。

戦時下では、英語名の変更を強要され、〈聖泉高等女学校〉と改称。戦後は新学制により1947年(昭和22)〈プール学院中学校〉、〈プール学院高等学校〉となりました。

1917年(大正6)大阪府東成郡鶴橋天王寺村(現・勝山キャンパス)に移転。1950年(昭和25)プール学院短期大学(英文科)を開学しました。

1980年(昭和55)創立100周年事業として泉ヶ丘キャンパスの用地を購入し、2年後に短期大学を移転しています。1996年(平成8)短期大学英文科を改組してプール学院大学(国際文化学部)を開学、短期大学をプール学院大学短期大学部(秘書科)に改称しました。

創立の背景と歴史

ワレン夫妻は、子供が12歳になるまでは本国の寄宿学校には預けず、家族一緒に暮らしたいと願っていたため、CMSに家庭教師の派遣を要請しました。CMSはFESと協議した結果、当時、香港で活動していたオクスラドを派遣することを決めます。FESは、アメリカ人宣教師D・エイビールが中国伝道の経験から、中国人女性への宣教の必要性をイギリスで訴えたことから1834年(天保5)設立された女性宣教師の組織です。中国から始まり、インド、パレスチナ、シリア、レバノン、日本に学校を設立し、運営管理しました。

ワレンが自宅裏に建てたCMSの小礼拝堂がオクスラドの裏庭に移され、〈オクスラドの学校〉の教室として使われました。建物が移動している当時の様子を描いたエッチングが残されています。1877年(明治10)7月にワレンがCMSに書き送った手紙から、オクスラドが子供たちの教育を担ってくれて感謝している様子がうかがえますが、8月19日付の大阪日報(毎日新聞の前身)には、早くも生徒募集の広告を出し、ワレンの子供たちと一緒に、日本人への教育も始められました。

プール学院において、草創期に尽力した人物は4人います。ワレンとオクスラドとプールとトリストラムです。また、短期大学草創期に尽力したのがフォスです。

学院の名に冠されたプールは、来日前にはインド伝道に尽力。当時、イギリス国教会では日本に宣教師を派遣していましたが、主教は派遣しておらず、アメリカ聖公会のウィリアムズ主教に堅信礼などのことを委ねていました。そこで、まだ31歳のプールがロンドンのランベス宮の礼拝堂で主教按手を受けて来日。東京のウィリアムズを訪ねたのち、一都市に一人という聖公会の伝統を守って、大阪に主教座を置きました。健康上の理由から神戸に移住、大阪周辺の伝道状況を把握し、北海道まで伝道の足を伸ばしましたが、9月の大阪三一神学校の校舎落成感謝式を最後に、帰国の途につきました。1885年(明治18)惜しくも亡くなっています。

トリストラムは1890年(明治23)から37年間、プール学院の校長を務めました。フォスは1950年(昭和25)開学したプール学院短期大学の初代学長で「すべて定刻5分前に準備万端整っていること」というプール時間の伝統をつくりました。

19世紀半ば過ぎのイギリスは、女性人口が圧倒的に多かったこともあって、未婚女性は仕事に就き、自活しなければなりません。当時、ミドルクラスの未婚女性の職業として、代表的なものはガヴァネス(住み込みの家庭教師)でした。上流家庭では、私立の寄宿学校で教育が行なわれる学齢前の子供には、母親ではなくガヴァネスがしつけや教育を施すのが通例でした。先生と尊敬されるものの、身分としては女中と同じ扱いを受けていましたが、やがてすぐれたガヴァネスや女性教師を養成する機関もできて、教職分野への女性の進出は目覚ましいものになりました。

オクスラドも経歴の中にガヴァネスの記述がありますし、トリストラムはロンドン大学で文学士の称号を取り、ウェストフィールド・カレッジで数学を教えるなど、ともに時代の先端を走る〈ニューウーマン〉だったことがわかっています。



創立者 Mary Jane Oxlad (1840~1922年)
自立した〈ニューウーマン〉として、
伝道と教育に生涯を捧げました。

